

水・土・農・人・地域

安全な水と土壌が健康な農作物を育て私たちの生命と地域を守ります。



財団だより

第34号

2013年8月1日

発行

一般財団法人 北海道農業近代化技術研究センター

<http://www.hamc.or.jp/>

深川事務所 / 〒074-1271 深川市広里町4丁目1番3号

TEL.0164-25-1591 FAX.0164-25-2117

札幌支所 / 〒001-0010 札幌市北区北10条西3丁目13番NKエルムビル

TEL.011-746-5391 FAX.011-746-3593





ご挨拶 理事長 細越 良一

公益法人制度改革による一般財団法人への移行に伴い、4月1日付けで理事長に選任されました細越良一です。どうぞよろしくお願いいたします。

一般財団法人の認可に至りますまでに、紆余曲折がございましたが、関係各位のご理解とご協力により、新たな体制で出発することができましたことに心から感謝を申し上げる次第です。今後とも、財団設立の原点である「自然環境と農業・農村の調和をめざして」という基本理念を忘れることなく、地域農業の振興に力を尽くして参りたいと考えております。

本年は、春先の低温と日照不足から融雪が4月下旬へと大幅にずれ込み、農作業の遅れが心配されましたが、その後の天候回復や関係者の皆様のご努力などもあって、稲作では平年近くまで生育が回復して参りました。長期予報によりますと、今年の夏は、全道的にやや暑い日が続くとのことでありますので、これに期待をしながら、今年も豊穡の秋を迎えることができるよう願っております。

さて、農業・農村を取り巻く情勢は、TPP・環太平洋経済連携協定への交渉参加により、農業を中心とした一次産業への影響が懸念されます。農業は、人間の生命の維持に欠くことができない食料生産のみならず、豊かな自然環境や美しい景観の保全等の多面的な機能を有しており、それらは何をもってしても代えることができません。産業としての側面だけではなく、そのこともしっかりと心に刻み、毅然たる姿勢で交渉に臨んでほしいものです。

次に、財団が行う公益事業についてですが、一昨年から、法人制度改革を見据え、大幅な事業内容の拡充を図って参りましたが、昨年に引き続き本年度も、地域の創意工夫に基づく主体的な取組に対し助成する「活力ある農村づくり推進事業」や農業者などが行う看板設置・ホームページ作成を支援する「農業情報発信支援事業」、認定農業者などを対象とした「農業・農村元気づくり海外農業研修事業」などに取り組んで参りますので、紙面でご確認の上、積極的なご活用をお願いいたします。

結びになりますが、農業者はじめ関係機関・団体の皆様におかれましては、今後とも、財団に対する変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げ、平成25年度の「財団だより」発刊に当たってのご挨拶とさせていただきます。

テーマI

農村地域の活性化

アンテナショップ構想の推進

財団が札幌に所有するNKエルムビルの1階東フロアを活用し、深川・滝川・妹背牛の3市町の農産物及びこれらの加工品を直売方式で販売し、アンテナショップの可能性について、平成23年度から検討を進めています。

また、地域の活性化や地産地消などの取組みを支援するため、昨年度から、財団等が利用していない期間を活用し、道内の市町村や農業者等が組織する団体に無料で貸し出すことにしています。

平成24年度の直売市は、7月から11月までに4回開催し、1,267名のお客様にご来店いただき、その売上金の一部72,600円を東日本大震災へ義援金として、寄付しました。



北空知・中空知「新鮮農産物直売市」を今年も開催 —ぷらっとサンダルで来たら—

〔第1回〕7月20・21日(土・日) 〔第2回〕8月31・9月1日(土・日)
〔第3回〕10月5・6日(土・日) 〔第4回〕11月9・10日(土・日)の12時～15時を予定しています。

首都圏での米販売促進活動の推進

都市圏でサンプル米を継続的に配布し、北空知・中空知地域ブランドの知名度アップを図ります。開催場所は、昨年に引き続き、食べ物に対する安全・安心志向が強い地域を選定することとしています。

平成24年度は東京都板橋区の高島平団地で実施し、「ふっくりんこ」のサンプル米1,100袋を配布しました。

活力ある農村づくり推進事業(取組み団体への助成)

財団では、活力ある農村づくりを進めるため、地域の創意工夫や主体性に基づく、地産地消の推進、地元農産物の付加価値の向上、農村環境の保全などに取組む団体に対し、平成23年度から助成を行っています。是非ご活用ください。

活力ある農村づくりの 取組みへの助成内容

- 助成内容／必要経費が100千円までは全額、100千円を超えた場合は越えた分の1/2を加算し、200千円を限度
- 応募期間／平成25年5月～11月
応募要領は財団ホームページをご覧ください。

平成24年度は、札幌市2団体、北広島市1団体、増毛町1団体、深川市1団体、妹背牛町1団体の計6団体に、それぞれ助成をしました。

| NO | 団体・グループ名 | 実施内容 |
|----|------------------------|------------------------------|
| 1 | アグリション21 | 北海道農産物の良さを知るために親子農業体験を実施 |
| 2 | だいずとらすと・だいずの会 | 農作物の収穫と麴づくり体験を実施 |
| 3 | 農村女性グループ「地域の味発見隊～南るもい」 | 地域の伝統食(郷土食)を次世代へ引継ぐ取組みを実施 |
| 4 | 深川イルム米販売促進グループ | 深川産米知名度確立のために独自のデザインによる米袋の製作 |
| 5 | 北のめぐみ愛食フェア実行連絡会 | スローフード運動に取組む生産者等の直接販売市を開催 |
| 6 | ファーマーズ・クラブ雪月花 | 特別栽培米販売のための玄米着色選別機を導入 |

スローフードフェスタへの参加

財団では、毎年、地場農産物への理解を深めることを目的に、深川市で開催されているスローフードフェスタに参加しています。

今年も昨年好評であった「地元農産物の糖度当てクイズ」を予定しています。



地域活性化推進事業(講演会の開催)

講演会やシンポジウムの開催などを通じて地域の活性化を図ろうとする取組みで、今年で47回を数えます。

昨年は、食・農・環境等に関わるフォーラムのパネラーやコーディネーターとしてご活躍されている慶應義塾大学大学院特任教授 林 美香子様を講師にお迎えし、「食と農による地域づくり」をテーマに講演をいただきました。



今年も、11月21日(木)に**(仮)すてきなアグリションをあなたに「農業をもっと楽しく・ビューティフルに」**をテーマとした、女性デザイナー3名によるシンポジウムを開催する予定。

～参加者の中から抽選で、農業者の方には農作業着を、農業者以外の方にはガーデニング用帽子をプレゼント～

農業・農村元気づくり海外農業研修事業

農業・農村の持続的な発展に向け、地域で主体的な役割を担っている認定農業者（配偶者を含む）及び農業後継者を対象に、海外農業研修への助成を行うとともに、その成果を広く地域活性化に活かすことを目的として実施しています。



本年度 実施予定の 海外研修

- 平成26年2月18日～3月1日までの日程でオランダ、スペイン、フランスを視察。
- 日本農業新聞が実施する海外農業研修視察団へ参加する方式により実施します。
- 研修視察費用の2分の1の助成を基本としますが、帰国後、当財団が実施する報告会に参加する場合には、4分の3まで助成を加算します。

平成24年度は、日本農業新聞主催の【2月ヨーロッパ農業研修視察団（一行29名）】に、滝川市から2名の認定農業者（配偶者）のご参加をいただき、平成25年2月14日から2月25日までの12日間の日程で、スペイン、イタリア、フランスの3カ国を視察しました。

スペイン（マドリッド・バルセロナ）

野菜農家及びブドウ農家視察、サン・ミゲル市場見学
有機栽培農家及びオリーブ農家視察、サン・ホセ市場見学

イタリア（ローマ）

朝市見学、アグリコルトゥラ・ヌオヴァ（協同組合）及びアグリツーリズム施設視察

フランス（パリ）

フランス有機農業連合訪問及びグリーン・ツーリズム取組み農家（教育ファーム）視察

農業情報発信支援事業

地域アイデンティティの醸成や産地から消費者に向けた情報発信を推進するため、農業者や農業者グループが行う看板設置やホームページ作成等について支援を行います。

なお、助成対象者は、深川市、滝川市、妹背牛町に在住する農業者及び農業者グループです。助成要領は、財団ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

① 農家看板設置事業 農家名や生産情報などを記載した看板設置

助成
限度
額

- | | |
|------------|---------------------------|
| [業者製作] 農業者 | ●150千円までは全額 |
| | ●150千円～300千円は1/2、限度額225千円 |
| | 農業者グループ |
| | ●250千円までは全額 |
| [自力製作] 農業者 | ●250千円～500千円は1/2、限度額375千円 |
| | ●全額助成150千円を限度 |
| 農業者グループ | ●全額助成250千円を限度 |

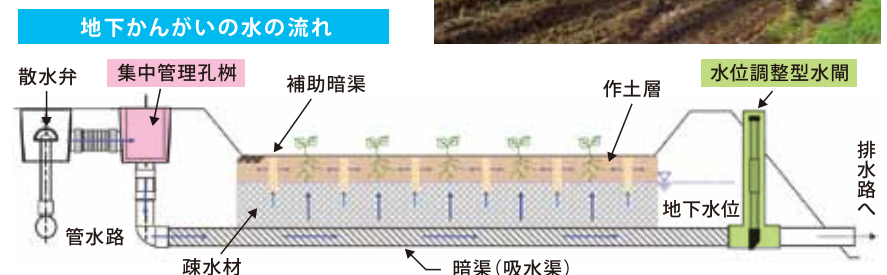
② ホームページ作成事業

消費者との交流促進や農産物等情報発信のためのホームページ作成・管理。作成は財団が行い、管理に係る費用も2年間の限度に全額負担します。
『皆様が生産している旬の農産物を、PRしてみませんか』

テーマII 農業経営の体質強化

集中管理孔方式による暗渠排水の実施

排水効果を持続させるとともに、転作時の水分補給や乾田水稲直播での苗立率の向上に活用が可能な「集中管理孔方式による暗渠排水」の普及啓発を図るため、実証モデルほ場の設置を平成23年度から進め、深川市、滝川市、妹背牛町で4ほ場設置しました。現地にはPR看板を設置するとともに、かんがい排水効果の確認調査を行っています。



低速心破や籾殻補助暗渠による排水効果持続性の確保

心土破碎速度の低速化(4km/h→2km/h)や新たに開発された籾殻補助暗渠機の活用により排水効果の持続性を確保する技術の普及啓発を図るため、平成23年度にモデルほ場を3か所設置しました。現地にはPR看板を設置するとともに、効果の持続性について調査を行っています。



大区画ほ場整備構想策定調査事業

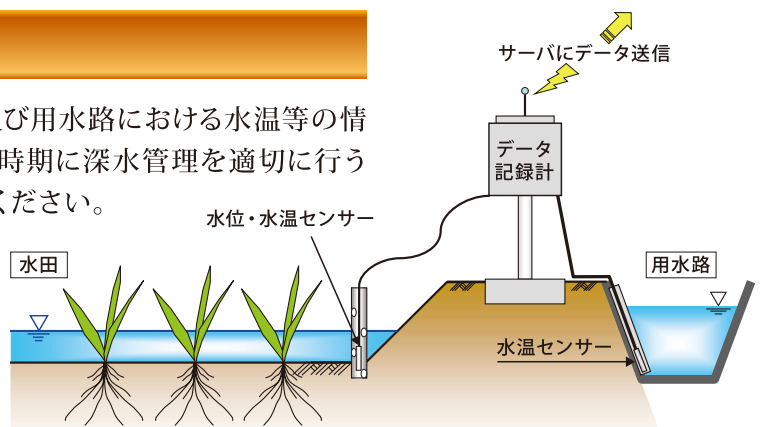
高齢化が進行する中で、今後、より効率的な土地利用のあり方が求められています。

財団では、地域自らがこれらに積極的に取り組んでいくことを助長するため、昨年に引き続き、地元の要望を踏まえながら、新規要望地区の事前評価を含め、大区画ほ場整備構想の策定に取り組んでいます。

地域気象データ利活用事業

冷災害に強い農業の確立に向け、気温、ほ場及び用水路における水温等の情報をリアルタイムで提供し、冷災害が予測される時期に深水管理を適切に行う手助けとする気象情報システムです。是非ご活用ください。

測定箇所は、深川市、滝川市、妹背牛町の計3ヶ所で、現地にはPR看板を設置するとともに、財団ホームページでは、これらの数値をグラフ化したものを載せています。



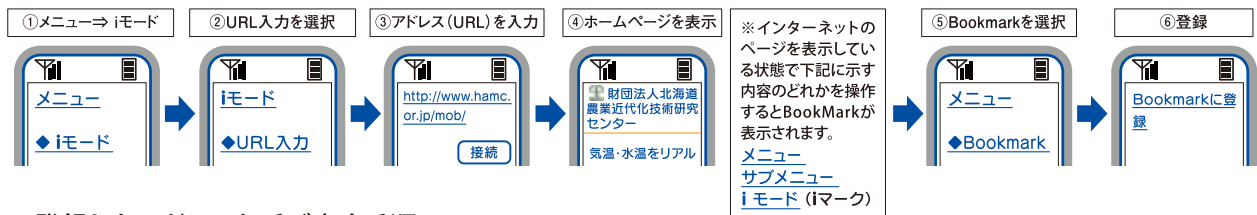
- 財団ホームページでグラフを公開
<http://www.hamc.or.jp>

- 携帯電話でもデータを公開
<http://www.hamc.or.jp/mob/>
携帯電話へ登録する手順は下記を参照願います。



携帯電話にアドレス(URL)を入力する手順(ドコモの場合)

■携帯でアドレスを登録する手順



■登録したアドレスを呼び出す手順



環境にやさしい 安全・安心な農業の推進

土壌診断・施肥設計事業

当財団が開発した土壌診断・施肥設計システム「NK-Psoilシステム」を活用し、環境にやさしい合理的な施肥の実施に向け、深川市、滝川市、妹背牛町を7ブロックに分け、平成22年度から取組を進めています。



土壌の分析項目は次のとおりです。

- ①pH(H₂O) ②可給態窒素 ③可給態リン酸 ④カリ ⑤可給態ケイ酸
⑥石灰 ⑦苦土 ⑧遊離酸化鉄 ⑨易還元性マンガン

「土壌診断・施肥設計システム」は、道の「施肥ガイド2010」に基づき、次の3パターンで自動的に行います。

- 肥料成分比率(N、P、K)が最も適合した施肥設計
- 最も安価な肥料を使用した施肥設計
- 当該JAが推奨する肥料を使用した施肥設計

なお、三番目のJA推奨肥料を使用した施肥設計の代わりに、皆様からのご希望に従い、肥料成分を指定いただければ、独自の肥料での施肥設計も可能ですので、お気軽にご相談下さい。

土壌診断・施肥設計実践支援事業

土壌診断・施肥設計事業の結果に基づき、減肥栽培を実施しようとする農業者に対し、一定額を助成する制度です。平成23年度より実施しています。

農業用水に関連する水質分析

安全・安心な農業生産の基本であるかんがい用水等の水質の保全を図るため、石狩川や雨竜川をはじめ、用排水路や地下水などについて、継続的に採取・分析を行い、その結果を公表しています。今年度は5月と7月に調査を行いました。



[平成25年度 調査結果]

河川融雪期・代掻き排水流出期(5/20)

水質調査では、従来と同様、いずれの地点においても基準値を超える有害物質は検出されていませんが、一般成分では浮遊物質量、全窒素、全リンが、5月において基準値を超える所がある結果となりました。基準値を超えた項目について追跡調査を行った結果、6月では概ね基準値を満足しました。今後も継続して調査を行っていきます。



新たな技術開発と 研究成果等の普及啓発

GPSを活用した高生産性農業を支援します

GPSガイダンスの活用

GPSガイダンスは、農作業用のカーナビです。北海道内では、平成20年度以降で約2,300台が導入されています。作業幅等を設定すると、代かき、防除などの作業経路を、画面とライトバーで誘導してくれるので、それを目安にハンドルを操作します。

| システム名 | 概算費用 | 測位誤差 |
|-------------|---|------------------|
| GPSガイダンス | 約30～50万円 | 良好な状態で20～30cm程度 |
| 高精度GPSガイダンス | 上記費用に追加費用約70万円 ※別途補正信号を受信する仕組みが必要です。 | 2～3cm程度 |
| 自動操舵システム | ガイダンスとは別に約60万円 | ガイダンスの測位精度によります。 |

測位誤差は、20～30cm程度といわれています。アップグレードと補正信号の取得により、測位誤差は2～3cm程度の精度まで向上します。ここまでの精度になると、播種作業など高精度を要する作業にも対応できます。さらに、自動操舵システムを装着すると、直進作業は手放し運転が可能になり、熟練を要する直進走行も容易になります。

GPSガイダンスでは、農作業の履歴として、作業面積、作業経路、走行速度などのデータが保存されます。そのため、どの圃場でどのように作業していたのかを確認することができるので、次年度の作業計画、作業経路の検討などにも活用できます。さらに、生産法人、作業受委託等での作業履歴の管理ツールとして活用することも可能です。

GPSによる圃場均平計測システム

大区画化された水田圃場では、圃場の均平度が重要になります。現在は、レーザーレベラーを使用した均平作業により、圃場の均平度が維持されています。

しかし、大区画圃場では、圃場表面のでこぼこを正確に把握することは、容易ではありません。

そこで、GPSを利用して圃場表面の高低計測を実施すると、計測後すぐに高低マップを作成できます。このマップを参考に均平作業を実施するだけでも、従来の作業よりも効率アップにつながります。切土、盛土、運土作業を事前にイメージすることが容易だからです。

※面積1.9haの圃場の計測時間は、外周計測5分、高低計測22分(測線10m間隔)でした。

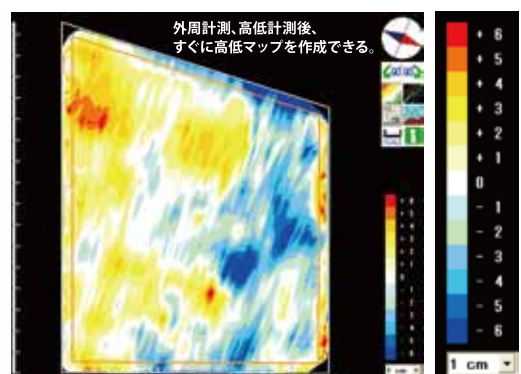
[GPSガイダンスシステム]



[自動操舵システムの搭載例]



[圃場均平計測結果]～高低マップ



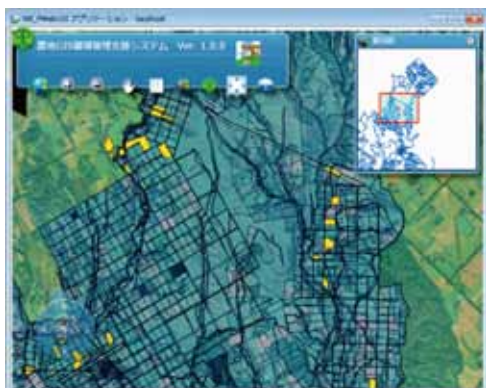
GISによる農地等管理支援

市町村・農業団体等による農地情報管理を支援するため、GIS(地理情報システム)を用いた「農地GIS圃場管理支援システム」の構築に取り組みました。

このシステムは、農地の所在や面積、整備内容などを総合的に管理することができ、**Web化によるデータ一元化、複数者による同時使用**はもとより、任意の管理項目のデータ共有等により、利便性を飛躍的に向上させることが可能です。

これらに加え、将来的には農家自身が作付や施肥などの『農業経営データを各圃場と結び付けて管理するほ場カルテ』の作成も可能となります。

[航空写真と地番図]



[ほ場図と土壌診断分析結果]



GPSによる土壌採取位置の管理も行うことができます。

ホームページや財団だよりによる情報発信

当財団ホームページでは、これまで実施してきた調査研究の成果や各種関連文献に関する情報を掲載しておりますので、是非ご覧ください。**【財団ホームページ <http://www.hamc.or.jp/> 是非ご覧下さい。】**

また財団だよりは、JAきたそらち・JA北いぶき・JAたきかわのご厚意により配布いただいておりますことに、感謝申し上げます。

農業農村の活性化に向けた相談への対応(北海道農業・農村元気づくり相談室)

当財団では「北海道農業・農村元気づくり相談室」を開設し、相談・問い合わせにお答えしております。

(フリーダイヤル: ☎0800-800-1591)

相談室長は当財団の理事長・細越良一です。

財団の 組織概要

名 称 一般財団法人 北海道農業近代化技術研究センター
 所 在 地 深川事務所 〒074-1271 深川市広里町4丁目1番3号
 TEL.0164-25-1591/FAX.0164-25-2117
 札幌支所 〒001-0010 札幌市北区北10条西3丁目13番NKエルムビル
 TEL.011-746-5391/FAX.011-746-3593
 設立年月日 昭和40年2月23日
 基本財産 4,250万円
 役職員数 理事4名・監事2名・評議員5名・職員17名(技術系13名+総務系4名)

役員 評議員

(平成25年7月1日現在)

| | | | |
|-------|------------|-------|--------------|
| 理 事 長 | 細越 良一(常 勤) | 評 議 員 | 岡部 一郎(一 已) |
| 副理事長 | 平澤 一彦(江部乙) | 同 | 柏木 孝文(深 川) |
| 専務理事 | 半澤 幸博(常 勤) | 同 | 中川 辰雄(学識経験者) |
| 理 事 | 野上 晃(納 内) | 同 | 近藤 辰哉(学識経験者) |
| 監 事 | 澁谷 英夫(音 江) | 同 | 沼田 邦夫(学識経験者) |
| 同 | 長谷 浩幸(妹背牛) | | |

※氏名の後に地域名が記載されている役員及び評議員は、それぞれの地域の財団事業推進協力員を兼務しています。